

再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No.1-3)

件名	溶解槽からのハル排出シュート管における詰まり							
事象の概要	<p>(1) 発生場所: 機器 前処理建屋: ハル排出シュート管 (溶解槽)</p> <p>(2) 発生の状況 溶解槽の運転中</p> <p>(3) 概要 溶解槽バケット内部、ハル払い出し口からハル洗浄槽に到るハル排出シュート内のハルの詰まり</p>							
事象による影響	<p>(1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 前処理建屋せん断処理・溶解槽ガス処理設備及び換気設備が稼働しているセル内での事象及びそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等、工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 溶解槽ホイールの回転動作不良に伴いせん断が停止するため、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 溶解槽ホイールの復旧作業は、セル外からの遠隔作業なので、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 下流の工程の運転に影響が生じる。 溶解槽の停止に伴い、前処理建屋内のせん断機、溶解槽以降の運転に影響が生じる。さらに下流の分離建屋以降の工程は、その中間にある一時的な貯留槽(計量後中間槽)の残液量で運転継続の可否を判断する。</p>							
対応の概要	<p>(1) 溶解槽バケット内部、ハル排出シュート管にハルが詰まっていることを確認する。</p> <p>(2) せん断機、溶解槽を停止した状態でハル洗浄槽を運転してハルの排出を継続する。</p> <p>(3) 詰まり状態が緩和しない場合は、遠隔操作機器(セル内クレーン、パワーマニピュレータなど)を利用して、遠隔で詰まりを除去する。</p> <p>(4) 溶解槽内ホイール内部及びシュート内のハル堆積物が除去されたことをホイール回転動作、トルク計などで確認して、定常値の範囲内に復旧したことを確認する。その後、溶解槽を空運転状況で監視運転して異常が生じない場合は、定められた操作手順に従って、定常運転へ復帰させる。</p>							
公表区分	毎月集約して月1回公表(ホームページへ掲載)							
対応区分	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>(a) 運転継続しながら復旧</td> <td rowspan="5" style="text-align: center;"> 国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 放射性物質の外部放出 放射性物質による汚染、被ばく等 多重防護の劣化 </td> </tr> <tr> <td>(b) 運転システムを切り替えて復旧</td> </tr> <tr> <td>(c) 当該機器を停止して復旧</td> </tr> <tr> <td>(d) 当該設備を停止して復旧</td> </tr> <tr> <td>(e) 影響範囲の設備を停止</td> </tr> </table>	(a) 運転継続しながら復旧	国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 放射性物質の外部放出 放射性物質による汚染、被ばく等 多重防護の劣化	(b) 運転システムを切り替えて復旧	(c) 当該機器を停止して復旧	(d) 当該設備を停止して復旧	(e) 影響範囲の設備を停止	
(a) 運転継続しながら復旧	国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 放射性物質の外部放出 放射性物質による汚染、被ばく等 多重防護の劣化							
(b) 運転システムを切り替えて復旧								
(c) 当該機器を停止して復旧								
(d) 当該設備を停止して復旧								
(e) 影響範囲の設備を停止								

